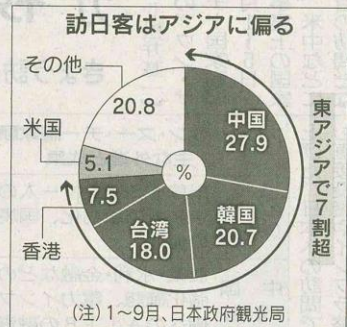


初の200万人「さらに倍」目指す

観光庁は31日、2016年の訪日外国人観光客が2000万人を上回ったと発表した。アジアの経済成長を受けて3年で2倍に増やせたが、外国人旅行者を年8000万人以上集めるフランスなど世界の観光大国には遠く及ばない。政府が掲げる訪日客を20年に4000万人に増やす目標達成には3つの課題がある。



外国人観光客でにぎわう東京・上野の「アメ横」(10月29日)

欧米開拓／リピーター獲得

脱アジア偏重

10月30日、瀬戸内しまなみ海道で国際サイクリング大会が開かれた。参加者約3500人のうち7%が外国人で台湾などアジアだけでなく、欧米からの参加者も目立った。米CNNが「世界で最も素晴らしい七大サイクリングコース」に選び、知名度が急上昇。愛媛県や広島県もアピールして

地方掘り起こし

地方が訪日客を伸ばす余地も大きい。米コンサルティング会社マッキン

中間層が増え、海外旅行をする人が急増していることが主因。だが、アジア景気が急減速したり、日本との関係が悪化したリスクは否めない。訪日客の裾野を欧米などに広げられるかがポイントだ。

ゼー・アンド・カンパニーの調査では、外国人の間に富士山や沖縄、京都

などの認知度は高いが、鎌倉、奈良、奥入瀬、伊勢神宮、知床などを知っている人は1割未満。桑原祐パートナーは「フランスや英国など他の観光大国は旅行者を地方に誘致している」と訴える。

モノからコト

訪日客数は増えても消費はふるわない。高級ブランド品などの大量購入が下火になり、7～9月の訪日客1人あたり消費額は15・5万円と前年同額より3万円以上減った。政府が目標とする訪日客数と消費額から逆算

訪日客1人あたり消費額は15・5万円と前年同額より3万円以上減った。政府が目標とする訪日客数と消費額から逆算